



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成29年2月10日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社アルファポリス

コード番号 9467 URL <http://www.alphapolis.co.jp/company/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 梶本 雄介

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼管理本部本部長 (氏名) 大久保 明道

TEL 03-6277-0123

四半期報告書提出予定日 平成29年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	2,248	△9.6	169	△76.4	169	△76.4	107	△77.1
28年3月期第3四半期	2,487	35.0	720	36.4	719	41.8	467	40.7

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	22.10	—
28年3月期第3四半期	96.55	—

(注)潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第3四半期	4,962	3,919	79.0
28年3月期	5,275	3,812	72.3

(参考)自己資本 29年3月期第3四半期 3,919百万円 28年3月期 3,812百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
29年3月期	—	0.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,000	△10.3	151	△83.3	150	△83.4	95	△83.4	19.61

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
 ② 期末自己株式数
 ③ 期中平均株式数(四半期累計)

29年3月期3Q	4,843,700 株	28年3月期	4,843,700 株
29年3月期3Q	— 株	28年3月期	— 株
29年3月期3Q	4,843,700 株	28年3月期3Q	4,843,700 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
(3) 追加情報	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	5
4. 四半期財務諸表	6
(1) 四半期貸借対照表	6
(2) 四半期損益計算書	7
第3四半期累計期間	7
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間（平成28年4月1日から平成28年12月31日まで）におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀による金融政策による雇用情勢の改善から全体的に緩やかな回復基調で推移しました。一方で、米大統領選後の急激な円安や株高、また、新興国経済の減速や欧米諸国の経済情勢変化による各国経済への影響懸念など、依然先行きは不透明な状況で推移しました。

当社が属する出版業界におきましては、依然として厳しい状況が続いております。出版科学研究所によると、平成28年の出版物の推定販売金額は、前年比3.4%減となる1兆4,709億円となりました。その内訳は、紙の「書籍」が同0.7%増となる7,370億円、「雑誌」は同5.9%減の7,339億円となっており、「雑誌」が特に厳しく、「雑誌」は「書籍」の売り上げを41年ぶりに下回る結果となりました。一方、電子出版物については、平成28年の売上高は1,909億円となり、前年比27.1%増となる大幅な成長を遂げております。

こうした環境の中、インターネット発の出版の先駆者である当社は、「これまでのやり方や常識に全くとらわれず」、「良いもの面白いもの望まれるものを徹底的に追求していく」というミッションの下、インターネット時代の新エンターテインメントを創造することを目的とし、インターネット上で話題となっている小説・漫画等のコンテンツを書籍化する事業に取り組んでまいりました。また、出版事業を通して蓄積した自社IP（小説、漫画、キャラクターなど）を活かしたオリジナルゲームを開発・運用する事業等にも積極的に取り組んでまいりました。

当第3四半期累計期間におけるセグメント別の業績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同期比較は、前年同四半期累計期間の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

① 出版事業

出版事業におきましては、編集部員の増強及び当社ビジネスモデルの基幹となるWebサイトの強化により、当第3四半期累計期間における、出版点数は345点（前年同期比46点増）となり、着実に成果を上げることが出来ました。また、電子書籍専用端末やスマートフォン向けの電子書籍販売に対しても積極的に取り組むことで、新たな収益源の獲得にも努めてまいりました。

しかしながら、第1四半期会計期間及び第2四半期会計期間において『ゲート』関連書籍の返本が発生し、収益を圧迫いたしました。加えて、ライトノベル市場への新規参入が活発化し、競争が激しくなってきたことなどにより、1タイトル当たりの発行部数が減少し、収益性が低下いたしました。

以上により、当事業の売上高は1,964,875千円（前年同期比21.0%減）、セグメント利益は517,620千円（前年同期比46.1%減）となりました。

書籍のジャンル別概況は以下の通りであります。

1. ライトノベル

当社の主力であるライトノベルの市場規模は、書籍市場が縮小傾向にあるにも関わらず、拡大傾向にあります。しかしながら、昨今では新規の参入が活発化し、他社から刊行される点数やレーベルともに増加傾向にあり、競争が激しくなってきました。

その結果、当第3四半期累計期間において、刊行点数は175点と前年同期比18点増となりましたが、発行部数2万部を超える作品は13作品とやや軟調となり、売上高は前年同期を下回る結果となりました。

2. 漫画

当第3四半期会計期間では、『ゲート』関連書籍の返本が収束したことに加え、『ゲート』以外の漫画の売行きが好調であったことから、当第3四半期会計期間の売上高は、四半期ベースで過去最高の売上高となりました。

将来の書籍化の基礎となるWeb連載漫画は堅調に推移しており、当第3四半期累計期間では、新たに20本のWeb連載（内、新シリーズ連載開始の2本含む）を開始し、当第3四半期会計期間末のWeb連載漫画本数は42本となりました。特に、当第3四半期会計期間において、新たに連載を開始した作品には『ダイテス領攻防記』など、最新話の更新日には、1日で4万アクセスを誇る作品（注）も含まれており、今後の更なる成長の布石を打つことができました。

（注）Web連載漫画『ゲート』の場合、最新話の更新日には、1日で約5.5万人の読者が閲覧しております。

同タイトルを漫画として出版した場合、発行部数は約12万部となります。

3. 文庫

漫画と同様、当第3四半期会計期間では、『ゲート』関連書籍の返本が収束し、売上高は、徐々に回復してまいりました。しかしながら、ライトノベル市場では、相次ぐ新規参入により競争が激化していることから、単行本の廉価版として販売している文庫においても1タイトル当たりの発行部数が減少する傾向となりました。

これらの結果、文庫全体の売上高は、前年同期を下回る結果となりました。

4. その他

当第3四半期会計期間では、ビジネス書『他人力のリーダーシップ論』を刊行し、戦略的に強化を行っている「ビジネス」ジャンルからの刊行点数は、当第3四半期累計期間において4点となりました。一方で、ライトノベルと同様、競争環境は厳しくなっていることから、全体的に収益性は低下いたしました。

その結果、その他全体の売上高は、前年同期を下回る結果となりました。

② ゲーム事業

平成28年2月にリリースいたしましたスマホアプリ『Re:Monster』については、年末商戦に絡めて大型のイベントを開催したことにより、着実な成果を上げることができました。また、株式会社ディー・エヌ・エーが運営する“スマホアプリをPCで遊べるプラットフォーム”『AndApp』への配信を決定する等、販路拡大に向けた取り組みも行ってまいりました。

その一方で、平成28年10月にリリースいたしましたスマホアプリ『TEH NEW GATE』については、事前登録数及びリリース直後の反応は想定以上となりましたが、その後のユーザーの継続率や新規ユーザー獲得に苦戦をいたしました。今後は、魅力的な新規機能のリリースに加え、出版社直営だからこそ可能となるメディアミックスの効果を活かした効率的な広告活動を模索する等により、売上高の回復を図る計画です。

平成28年4月に正式サービスを開始いたしましたPCブラウザゲーム『ワンモア・フリーライフ・オンライン』については、年末商戦に狙いを定めたイベントが好意的に受け入れられ、年末における売上高は期待以上となりました。しかしながら、ユーザー数や滞在率は徐々に低下してきており、当第3四半期累計期間における売上高は厳しいものとなりました。

その結果、当事業の売上高は283,496千円（前年同期は計上なし）、セグメント損失は85,030千円（前年同期は9,768千円のセグメント損失）となりました。

以上の活動の結果、当第3四半期累計期間の売上高は2,248,372千円（前年同期比9.6%減）、営業利益は169,636千円（同76.4%減）、経常利益は169,966千円（同76.4%減）、四半期純利益は107,053千円（同77.1%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

当第3四半期会計期間末の流動資産は、前事業年度末に比べ320,186千円減少し、4,616,036千円となりました。これは主に、売上高の減少に伴う売掛金の減少（前事業年度末比244,436千円減）に加え、法人税等の支払等に伴う現金及び預金の減少（前事業年度末比193,266千円減）によるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べ7,662千円増加し、346,741千円となりました。これは主に、ゲーム等のソフトウェア制作費を計上したことにより無形固定資産が増加（同12,998千円増）したことによるものであります。

② 負債

当第3四半期会計期間末の流動負債は、前事業年度末に比べ392,868千円減少し、992,147千円となりました。これは主に、法人税等の支払いに伴う未払法人税等の減少（前事業年度末比250,411千円減）及び、売上高の減少に伴う返品調整引当金（前事業年度末比60,242千円減）、及び未払金（前事業年度末比63,107千円減）の減少によるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ26,709千円減少し、51,208千円となりました。これは全て、借入金の返済に伴い長期借入金が増加したことによるものであります。

③ 純資産

当第3四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ107,053千円増加し、3,919,422千円となりました。これは全て、四半期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年3月期の業績予想につきましては、平成28年11月10日に公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

(注) 業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

（税金費用の計算）

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計方針の変更）

（平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用）

法人税法改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を第1四半期会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この変更による当第3四半期累計期間の損益に与える影響はありません。

(3) 追加情報

（繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用）

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を第1四半期会計期間から適用しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,572,464	2,379,198
売掛金	2,039,382	1,794,945
製品	179,771	159,797
仕掛品	74,724	73,944
未収還付法人税等	-	136,404
その他	69,880	71,745
流動資産合計	4,936,223	4,616,036
固定資産		
有形固定資産	11,061	9,956
無形固定資産	222,034	235,033
投資その他の資産	105,981	101,750
固定資産合計	339,078	346,741
資産合計	5,275,301	4,962,777
負債の部		
流動負債		
買掛金	84,627	78,342
1年内返済予定の長期借入金	51,272	40,732
未払金	440,513	377,406
未払法人税等	250,411	-
賞与引当金	16,986	31,256
返品調整引当金	491,730	431,487
その他	49,474	32,923
流動負債合計	1,385,016	992,147
固定負債		
長期借入金	77,917	51,208
固定負債合計	77,917	51,208
負債合計	1,462,933	1,043,355
純資産の部		
株主資本		
資本金	863,824	863,824
資本剰余金	853,824	853,824
利益剰余金	2,094,720	2,201,773
株主資本合計	3,812,368	3,919,422
純資産合計	3,812,368	3,919,422
負債純資産合計	5,275,301	4,962,777

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	2,487,622	2,248,372
売上原価	972,729	1,021,547
売上総利益	1,514,892	1,226,824
返品調整引当金戻入額	433,175	491,730
返品調整引当金繰入額	504,091	431,487
差引売上総利益	1,443,975	1,287,067
販売費及び一般管理費	723,868	1,117,430
営業利益	720,107	169,636
営業外収益		
受取利息	247	26
中小企業倒産防止共済前納減額金	53	-
雑収入	-	894
その他	4	-
営業外収益合計	304	921
営業外費用		
支払利息	942	591
その他	26	-
営業外費用合計	968	591
経常利益	719,443	169,966
特別利益		
保険解約返戻金	30,593	-
特別利益合計	30,593	-
税引前四半期純利益	750,036	169,966
法人税等	282,388	62,913
四半期純利益	467,647	107,053

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	出版事業	ゲーム事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,487,622	—	2,487,622	—	2,487,622
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,487,622	—	2,487,622	—	2,487,622
セグメント利益又は損失(△)	960,834	△9,768	951,065	△230,958	720,107

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△230,958千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	出版事業	ゲーム事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,964,875	283,496	2,248,372	—	2,248,372
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,964,875	283,496	2,248,372	—	2,248,372
セグメント利益又は損失(△)	517,620	△85,030	432,589	△262,952	169,636

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△262,952千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更に関する事項

第1四半期会計期間より、報告セグメントを従来の単一セグメントから、「出版事業」及び「ゲーム事業」の2区分に変更しております。

なお、前第3四半期累計期間のセグメント情報は、当第3四半期累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。